

いい人生だったね、
そう思われるために
できること

死の準備と

その心構え

今から

準備するもの一覧

「立つ鳥跡を濁さず」と言うのは簡単だが、やるのは難しい。それでも、いざ死の準備を始めれば、お世話になった人や思い出が次々蘇ってくる。なにより自分のために、思いきって一歩踏み出そう。



▲妻の菩提寺である新宿、源慶寺に渥美清の墓はある。寅さんのイメージを守るために、ひっそりと息を引き取った

◀終末期の事前指示書が用意されている自治体も。写真は愛知県半田市のもの

私の事前指示書

書の内容
自分の医療・ケアに関する判断や決定をする人を任命
わって、自分の医療・ケアに関する判断や決定をする人を任命
者は、身体状態や周囲の状況、あるいは医学の進歩を考慮して「本人
の意思の利益判断をしてくれる人です。
本人自身で、医療・ケアに関する判断・決定ができなくな
る場合、代理判断者として、

代理判断者	
氏名	田中花子
住所	〒114-0001 東京都文京区
氏名	田中花子
住所	〒114-0001 東京都文京区

いまから準備するもの一覧

きれいに逝くために準備しておくもの		
	準備すればこんないいことがある	
葬儀、お墓	葬儀に呼ぶ人、呼ばない人一覧	今は疎遠だが仲が良かった友人など、家族が知らない人も葬儀に呼ぶことができる
	遺影	会社員時代のスーツ姿や、家族旅行の写真など、自分らしい遺影で見送ってもらえる
	香典返しの品物、葬式で流す曲	葬儀で思い出の曲を流したり、香典返しを思い出の品にすれば、自分らしい葬式に
	生前戒名	お寺でつける戒名は生前につけることもでき、自分が納得のいく戒名にしてもらえる
	葬儀互助会の会員証	互助会に入っていることを家族が知らず、別の業者で葬儀をしてしまう事態を防げる
	散骨契約書	遺骨を海に撒く散骨では後悔をするケースも。散骨業者、家族と生前にやり方を決める
	納骨堂の契約書(生前予約)	立地や管理料について家族と相談してから納骨堂を選んでおけば、感謝される
	写真を整理したアルバム	写真は、家族が最も処分に困る遺品。一冊のアルバムにまとめれば迷惑がからまない
	形見分けの希望のメモ	長男には時計、長女には着物など、あげたい人に一番あった形見を渡すことができる
	財産の寄附先	揉める原因にもなる財産も死後に寄附をしてしまえば、人生の最期に人の役に立てる
思い出(モノ)	銀行口座、株券、保険の一覧	相続するはずの預金や有価証券が、家族に発見されず無駄になる悲劇を防げる
	役所からの郵便物	固定資産税納税通知書や年金振込通知書をとっておくと、家族の死後手続きが楽に
	家財、蔵書の処分費用	3LDKで約20万円など、家財の処分にはおカネがかかる。遺産とは別に用意する
	遺言書の付言事項	遺言書には財産の分け方のほかに、感謝の気持ちを書くことができ、争続防止にもなる
	家系図	隠し子や腹違いの兄弟はいないかなど、戸籍を取って整理しておけば相続が楽になる
	救急医療情報カード	緊急時に備え、かかりつけ医、持病、服薬などを記載するカード。自治体の窓口で入手
	終末期医療の事前指示書	最期をどこで迎えたいか、救急処置を受けるかなど、「死に方の意思」を伝えられる
	尊厳死宣言書	過度な延命治療を望まないことを宣言すれば、家族が選択を迫られて苦しまずに済む
	臓器提供意思表示カード	臓器を提供するか、しないかの意思を伝えられる。保険証の意思表示欄への署名でもOK
	献体登録証	医科大学に登録すれば、死後、遺体を引き取ってもらい教育や研究に役立ててもらえる

「あなたは、自分の遺影を用意していますか？」

こう訊かれれば、思わず考えこんでしまう人も多いのではないだろうか。何枚かの写真が頭に浮かぶものの、どれも決め手に欠く。そもそも、自分を写した写真がどれだけあるのかわからない人もいるかもしれない。

しかし、人生の最期を締めくくる葬儀で、仏頂面で写った昔の証明写真を引き伸ばした遺影しかなければ、どんなに立派な人生を送ったとしても、参列者たちは残念に思うこと

だろう。自分がいざ棺に入ったときに、家族や友人たちに「いい人生だったね」と見送ってもらうためには、生前にやっておかねばならない、それ相応の準備がある。

人生を振り返りながら準備

遺影の保管場所にも注意したい。自分の書斎などわかりにくい場所にしまい込むのではなく、たとえばテレビの横のような、家族にもわかりやすい場所にファイルに入れて置いておく。

それでは、遺影はどうやって用意すればいいのか。

「慌てて写真館で遺影を撮る必要はありません。スナップ写真の10円玉くらいの大きさの顔でも大丈夫なので、自分が人生で一番輝いていたときのお気に入り写真を見つけておきましょう」(葬祭関連事業を行うFUNET代表取締役・三浦直樹氏)

ここまで準備をしておけば、葬儀では自分の納得した写真が飾られ、あなたのいい思い出とともに見送ってもらえることだろう。香典返しの品や葬儀で流す曲についても、自分の気に入ったもの

を指定しておけば、より自分らしい式にできる。

葬儀に呼ぶ人、呼ばない人一覧を作っておくことも重要な準備だ。この一覧があれば、家族は当然助かるが、それだけではない。自分が葬式に来てほしい人を思い浮かべること、人生を振り返ることができるのだ。葬儀に呼ぶ人一覧を作るにはまず、「ありがとう」を言いたい人を書きだしてみよう。お世話になったが今は疎遠な人や、昔住んでいた土地で面倒を



誰が葬儀に来るかわかれれば、おのずと規模も決まる

見てくれた人など、自分の人生に関わってきた人を振り返り、改めて連絡をとってみる。一覧には必ず連絡先を添え、「AさんとBさんは仲が悪いから鉢合わせしないように」などと細やかな指示があると、より感謝されるはずだ。誰が葬儀に来るかわかれれば、葬儀の規模も決めることができる。家族だけで行うことが多くなり、お墓の規模も比較的大きなものなのか、規模がすぐにわかれば、死後、家族も会場選びや香典返しの準備などを進めやすくなる。

自分の葬儀費用を自分で用意しておくの

も、マナーだ。葬儀互助会に加入して、葬儀費用を積み立てておくという手もある。だが、もしそれを家族が知らないと、互助会に加盟していない葬儀社に頼んでしまったら、積立金

も戻ってこないという悲劇がおきる。口頭で伝えておくのはもちろん、喪主を務める家族に、会員証を託してしまってもいいだろう。死の準備を進めるには、モノの整理もしな

ければならない。といっても、いきなり「断捨離」をする必要はない。まずは遺影選びもかねて、写真を整理する。「家族が最も困るものは写真の処分なんです。

ゴミとして捨てるのも忍びなく、お寺で供養してもらうことになりかねない。一冊のアルバムか、データにまとめておくことをお勧めします」(終活カウンセラー協会代表理事・武藤頼胡氏)

写真の整理は、自身にとってもいい効果がある。人生を総括する一冊のアルバムを作るなかで、忘れていた思い出が蘇ってくるのだ。

写真が済んだら、少しずつモノの整理を始める。不要なものは捨てるが、自分にとって思い出深いものは、形見として人にあげるのもいい。

一般的な相続では、配偶者や血がつながっている人に財産を分けていく。だが、血のつながりはないが、感謝を形で示したい相手もいるだろう。そうした人には、時計や衣服など、あげたいものを決めておき、メモに残しておく。

モノを整理していくことで、心の整理もついてくる。その次に、大切な家族に財産を遺すことを考えて、相続の準備を進めていこう。まずは銀行口座や証券口座の一覧を書きだしていく。ここでは、詳細な情報まで書いていくのが重要だ。銀行なら、銀行名、支店名、種類、口座番号、今の残高、キャッシュカードの有無を書く。有価証券なら、証券会社、種類、銘柄、数量、現在価格、評価額を、生命保険なら保険会社、証券番号、主契約か特約か、種類、保障期間、保障額、受取人を書いていく。



散骨もひとつの手だ

数千円しか入っていない口座や、放置している証券口座は、このタイミングで解約しよう。もし遺産分割が終わってから証券会社のダイレクトメールが来てしまえば、家族は話し合いを再びやるハメになってしまう。この準備で財産の把握ができたなら、遺言書を書いてみる。どんな相続財産があるかを一覧にした財産目録は、'19年1月からパソコンでの作成が認められたため、手をつけやすい。

誰に何を相続させるかを書いた遺言書の本体については、今年7月10日以降から新制度が始まる。遺言書を法務局で預かってもらえ

死んだら自然に還りたい

るようになるうえ、遺言書が正しい形式かの確認もしてくれる。遺言書は今すぐ作らずに、新制度の開始を待ったほうが良い。

家族に受け継がれていく財産である、お墓についても考えておきたい。ここで重要なのは、お墓は遺される家族のためのものだということだ。お墓が田舎にあつて子どもが住む街から遠く、お墓参りができないなら、お墓の引っ越し(墓じまい)を考えたい。

最初に納骨堂や霊園、散骨など遺骨をどこに動かすのかを決める。次に、今のお墓を

たいと考えている人が散骨を選ぶケースも増えている。「散骨にしてほしい」と遺言書に書くだけでは不十分だ。お墓が無いために家族が後悔しないよう、散骨業者も含めて打ち合わせをしておこう。

最後に、自分が死ぬときに家族に迷惑をかけないために、死に際にも配慮をしておきたい。最期の瞬間をどう迎えるか、最低限あなたが決めておくべきことについては、後の章で詳述しよう。

その他、113ページの表に「きれいに逝くために必要な準備」をまとめた。無理に一気にやろうとせず、やりやすいものから、いまのうちに手をつけよう。

2 納得できる最期、納得できない最期

死期が近づき、自分の人生を振り返ったときに、「あれをやっておけばよかった」と後悔する人は少なくない。「納得できる最期」を迎えるためには、なにをしておくべきか。日本看取り士会会長の柴田久美子氏は、基本的な心構えとして「死を意識するようにになったら、やりたいことをやって悔いを残さない人生を送ることを心がけるべきだ」と言う。

「余命1カ月と診断された末期がんの78歳の男性は、最期の時を自宅で過ごしたのです

が、『プリンが食べた』と奥さんに伝えても『お砂糖が体を冷やすからプリンはダメ』と禁じられていた。私は、死の間際には好きなものを好きなだけ食べるほうがいいと思っ

会いたい人に会っておく

死を迎えるのは誰にとっても怖いもの。じ

の瞬間は突然訪れるから、事前に決めておいたの」とのことでした。死の瞬間を少しでも華やかなものに変えたことで、満足げな表情を浮かべて最期を迎えていらつしやいました」奥野氏は、会いたい人に会っておくことも重要だと説く。特に、家族や友人とのわだかまりを抱えている場合、面倒でもそれを解消しておくべきだと提案する。

生前、とにかく息子にひと言謝りたいと、男性は伝手(て)を辿って病院に息子さんと呼び寄せた。ペンを握る力もないほどに弱っていたが、ミミズの這ったような字で息子さんにお詫びの言葉を書いた手紙を渡したという。「ところが息子さんはそれを読むなり、ビリビリに破いてしまつた。簡単に許せるものではなかったのですよ。しかし、その患者さんは『息子が俺を許さないのは当然だ。それでもいいから、とにかく謝りたかった』と言うんです。その10日後に男性は亡くなりましたが、息子さんに謝ることができなかったら、未練を残したまま最期を迎えたでしょう

ね(奥野氏)
最も望ましいのは、最期の瞬間まで人生の目標を持つことだ。ホームオン・クリニックの平野国美院長は、急性骨髄性白血病の患者がやってきたときのことを回想する。

「その患者さんは歯磨きをするだけでも息が切れてしまうというほど体力が落ちていて、先が長くないことは家族もわかっています。ある日、その患者さんが私にこう言うのです。『11月、地元のみん音楽祭があるんですが、それに出場したい』と。歌が大好きな患者さんでしたが、人生最後の思い出に、音楽祭に出たいということでした。生きる希望を失わせるわけにはい

かず、応援することにしました」
迎えた音楽祭当日。会場に、酸素吸入の管をつけたその人の姿があった。アンディ・ウイリアムスの『ムーン・リバー』を歌いあげると、観客から万雷の拍手が送られた。その2ヵ月後、男性

3 最期に後悔しないために、これだけは決めておく

は静かに息を引き取った。『本当はもっと早くに亡くなってもおかしくなかったのですが、音楽祭のために毎日練習をしたことが、人生に刺激を与えたのでしよう。ご家族や担当医らに何度も『人生の最後』に望みがなくなった。ど

んな薬よりも効果があつたよ』と言ってお別れされました」
「やり残したことはない」と言い切るのは難しくとも、漫然とその日を迎えるのは避けたい。「納得できない」と後悔したところで、誰も死から逃れることはできないのだから。

厚労省によると、命の危険が迫った状態になったとき、約7割の人が「どんな治療を受けたいか」「どこで最期を迎えたいか」という意思を伝えられないまま、死を迎えてしまうという。本当は自宅で死にた

かったのに、病院で死んでしまった。余計な治療を受けたことで、苦しみながら死んでいった。そんなことになれば、それまで満足した人生を送ってきたも、すべてが台無しになってしまう。後悔しないために、決めてお

くべきことは多い。最も重要なのは、「死の間際に延命治療を受けるか」「受ける場合、どこまでの治療を受けるか」を決めて、その意思を書き記しておくことだ。かかりつけの病院などで「延命治療に関す

る希望を書いておきたい」と伝えれば、「事前指示書」を用意してくれる。〈医師が回復不能と判断したとき、心肺蘇生を行うか〉〈人工呼吸器をつけるか〉などの細かい項目があるので、これに記入しておけば、最期に受ける治療を決めておくことができる。少しでも長く生きることを望むなら、延命治療を受ける意思を示しておくべきだが、一方で延命治療の苦しさについても知っておいたほうがいい。湘南ホスピタルの奥野滋子医師が説明する。「たとえ老衰の過程にあっても、絶対に肉親を死なせたくないという家族もいます。時には患者がづらい思いを

意識がなくなった場合に備えて事前に決めておくべきこと

どこで最期を迎えるか	病院で延命治療を受けるか、介護施設、自宅で療養するか
食事ができるかどうか	口から水を飲めなくなった場合、点滴での水分補給を望むか
食事ができなくなった場合、血管からの栄養剤点滴を望むか	食事ができなくなった場合、胃ろうによる栄養摂取を望むか
どこまで治療を受けるか	呼吸しにくくなった場合、人工呼吸器を取り付けるか
	心臓が止まった場合、心臓マッサージを行うか
	心臓が止まった場合、電気ショック治療を望むか

するような延命治療を病院に要請し、『もうなにも食べたくない』という患者に無理にでもモノを食べさせる。その結果、誤嚥性肺炎になってしまうようなこともあるのです」
あなたの死は、もちろんあなた自身のものだが、家族のものでもある。延命治療の可否をはじめ、自分で決めた最期は、家族にも理

解しておいてもらう必要がある。「自分の死に場所」もその一つ。なんの意思表示もしていなければ、意識を失った後、病院に運ばれ、そのまま病院のベッドで死を迎えることになる。「看取りまで面倒をみる」と謳う老人ホームでも、実際に入居者が危篤状態になると、気が動転したり、のちに家

族とモメることを避けるために、救急車を呼ぶことは少なくない。そうやってしまえば、結局死に場所は病院となる。慣れ親しんだ自宅で家族に囲まれて最期を

自分の死と向き合う

迎えたい。そう望むなら、「日本尊厳死協会」のホームページに掲載されている「私の希望表明書」などを利用して「最期を過ごしたい場所」に「自宅」と記しておくことだ。

ことなんて、家族と話したくない」と放っておくとどうなるか。あなたが危篤状態に陥ったら、家族は医者に「少しでも長く生かしてください」と懇願するかもしれない。そして、人工呼吸器と胃ろうチューブを体につながられる。電気ショックで一瞬意識が戻るが、壮絶な痛みを感じ、再び昏睡状態に陥る。「死に際だというのにこんな苦しい思いをさせやがって」
家族はあなたのためを思っていることなのに、当のあなたは家族を恨みながら、死の瞬間がやってくる

そのうえで、本当に最期が近くなったときのために、自宅にベッドを設置し、看取りの医師(在宅医)を決めておく必要がある。長尾クリニックの長尾和宏院長は、「人生の最期を委ねる在宅医を『近所だから』との理由だけで選ぶと後悔することがある」と言う。「あらかじめネッ

トや書籍などで、看取りの実績数が豊富な在宅医を選ぶことが大切です。事前情報なしに在宅医を決めた結果、技術不足のために緩和ケアが不十分だったり、相性が悪かったり、満足できない最期を迎えるというケースも少なくないのです」
自分の死に方を考えることは、精神的にもきつい作業だ。しかし、「面倒だ」「死ぬときの

そんな事態を避けるためにも、自分もいずれ死ぬという現実とい



青山葬儀所での告別式で飾られた市原さんの遺影

さん(享年80)を亡くした。市原さんと60年来の友人であり、大河ドラマ『いだてん』で金栗四三の祖母役を演じた、女優の大方斐紗子(80歳)が振り返る。

「私は俳優座の養成所で、えっちゃん(市原さんの愛称)の4期下の後輩でした。俳優座でスタッフだった塩見さんはえっちゃんと同期です。いつもボロボロのジーンズをはいていたんですが、それが妙に似合う格好いい方

でした。本当に仲の良いいご夫婦でしたね。塩見さんを亡くしてから、えっちゃんはそんな素振りにはまったく見せないんですが、内心は悲しさに打ちひしがれていたと思います」

最愛の人を亡くした市原さんが自分にできることはないかと考えたのが、お墓のことだった。市原さんは生前から「お墓は人生を物語る証」と語っていたという。

「えっちゃんが亡くなる少し前にお仕事でこ

一緒したときに『私、樹木葬ができる墓地を必死で探しているの。でも、いいところがないかな』とつぶやいていました」(大方さん)

樹木葬とは、墓石の代わりに樹木を墓標として用いて、遺骨をその樹木の根元に納骨する埋葬方法のこと。市原さんは関東近郊の墓地、霊園を巡り歩いた。そうして千葉県袖ヶ浦市にある霊園に決めたという。

「樹木葬はご主人のためにといい思っていたのでしよう。より良い環境で眠らせてあげたいという気持ちだったのだと思います」(大方さん)

そこで市原さんは並んだ2本の樹木を購入

4 きれいに消えていくために、あの人がやっておいたこと

「『いつ、そのときが来ても困らないように』と、よくおっしゃっていました。『終活』がブームになるずっと前から、ご自身の身辺整理をされていたんです」

そう話すのは、今年3月に亡くなった生活

なりやすい。自分が望む最期を迎えることは家族にとっても幸せなこと。そう思っていました。最期について考えておくべきです」

後悔しない死とは、あなたと家族がともに納得してお別れできるかにかかっている。

評論家の吉沢久子さん(享年101)と四半世紀にわたり親交があった、フリーライターの田村幸子氏である。

吉沢さんは「家事評論家第1号」として活躍し、随筆家としても多くの著作を残した。'84年に夫である文芸評

論家の古谷綱武氏(享年75)を亡くした後、30年以上、「おひとりさま」として一人暮らしをしていた。

「吉沢さんが自分の死について真剣に考え始めたのは、ご主人を亡くしたことがきっかけだったようです。子どもも孫もいないので、自分に何かあったときに、相続などで親族に迷惑をかけたくない。それで、法的に有効な遺言書を用意し、家の後始末やお墓の管理などを記した。遺産の管理はすべて甥夫妻に任されたそうです。預貯金などの財産や、約200冊の著作権の管理など、範囲は多岐にわたりました。生前から貸金庫の鍵は一つを自分の手元に、もう

一つは甥夫妻に預け、いつ何が起きてもお父さんやお母さんのように準備されていました」(田村氏)

衣類など身の回りの品も一定量を超えないように心がけ、膨大な蔵書の寄贈先も決めていた。葬儀や告別式の開催、亡くなった後の法要も断った。残された遺族らに負担をかけ、形だけの儀式をするよりも、日頃思いついてくれたほうが嬉しいという思いがあったという。田村氏が続ける。「吉沢さんは、延命治

国民的女優の樹木葬

昨年1月に心不全で亡くなった、女優・市原悦子さん(享年82)。市原さんが最も大切にしていたのが、自分が

療は不要だとおっしゃっていました。自分で自分のことがわからなくなり、迷惑をかけることを避けたかったのでしよう。亡くなる2日前まで新聞が読めるほど意識もハッキリしていましたし、最期まで周囲の人たちを思いやっていたと伺いました。入院先のスタッフが、吉沢さんが亡くなった後、遺族の方へ『お世話させて頂いてありがとうございます』とお礼を言われるほど愛されていました」

した。一方は塩見さん、もう一方には自分が入るためだ。そうして昨年3月、彼女の遺骨もそこに納められた。

樹木葬は基本的に墓を継承しない、一代限りのものだ。費用も安く、残された人たちの負担が軽いという利点もある。二人の間に子どもはいなかったことで、残される縁戚たち

への配慮もあったのだから。大方さんが話す。「えっちゃんの姿を見て、私も樹木葬を考えています。彼女と出会うまで私も本当に幸せでした」

彼女たちはでき得る限りの支度をきちんと行っていた。だからこそ、周囲から愛され、きれいに消えていくことができたのだ。

5 賢い人たちの選択と決断

「実家をどうするか、母と私はずっと心配していたんです。二人の兄は、やはり自分が育った家を放すという

説得しました。そう語るのには、女優のいとうまい子さん(55歳)だ。'16年に彼女は愛知県にある生まれ育った実家を売却した。

一口に「死の準備」といっても、それぞれの家族が置かれた環境は千差万別で、絶対の正解はない。しかし、それを踏まえたいうえで、賢い選択を行った人は多い。

いとうさんも、その一人だ。いとうさんの家族は、元々は父、母、二人の兄の5人家族だった。父母も拠点を東京に移し、長らく実家は空き家状態になっていた。13年に父が亡くなった後、この実家のことが気がかりになった。名古屋駅から車で約20分、75坪の土地に建つ一軒家だった。

「母に何かあった場合、きょうだい3人で相続することになります。土地や建物だと均等に分けることは難しいで

すし、いろいろと面倒なことがふりかかってくると思えました。それが原因できょうだいの仲が悪くなるというのは避けられなかったんです。それだったら、きれいなさっぱり無くしてしまえばいい、おカネはすべ

戦前の恩を返したかった

て母に渡すという形でいいんじゃないかと思つたんです」（いとうさん）
つまり、実家をこの段階で処分するということだ。これは次の代に面倒を先送りしない決断でもある。

15年に空き家対策特別措置法が施行された。実家が『特定空き家等』という指定を受けた場合、固定資産税が更地と同等の6倍に跳ね上がる可能性もあつた。そのため、家族で話し合い、売却を決めた。いとうさんが話す。

「解体して土地を売ることにしたのですが、家の前の道が狭く、ブルドーザーが入れな

った。そのため、人力で解体するしかなく、800万円かかるなど予想外の事態も起きた。それでも最終的に1400万円で売却できて、600万円の利益が出ました。結果的にやってよかったと思つています」

身内以外に自分の財産を渡すことで、思いを遂げようという人もいます。『遺贈寄付 最

期のお金の活かし方』などの著書がある、立教大学社会デザイン研究所研究員・星野哲氏が語る。

「私がお会いしたなか、埼玉県の有料老人ホームに暮らす90代の林さんという女性がいらつしゃいました。彼女は50代後半のときに難病にかかったことをきっかけに、自身の資産をどうするか考え始めたそうです。林さんには子どもはいなかったのですが、甥や姪だけでなく、お世話になった病院や母校に渡そうと決めたのです」

林さんは15歳のときに父親を亡くしたため、授業料が不要で、生活費ももらえる師範学校（戦前に存在した教員養成機関）に進学

した。彼女は戦争を生き抜き、戦後は高校の教師として働いた。恩返しのために母校に寄付しようと考えたのだ。

「林さんはいったんすべての財産を姪に遺贈し、その姪を遺言執行者に指定するという公正証書遺言書を作成しました。林さんが亡くなった後、その受け取った財産を他の甥などにも渡し、残りを母校や病院に寄付してもらおうという内容です」（星野氏）

きちんと選択し、決断しておけば、お世話になった人や、恩を受けたまま心残りになつていた人たちに報いることができる。賢人たちの経験から、あなたに合った死後の準備をしてほしい。

6

渥美清に学ぶ、死ぬまでの時間の使い方

「主人からは、遺言のように『葬儀は家族だけで済ませて、すべてが終わった後に発表するように』と言われておりましたので、そのようにいたしました」

本誌記者にこう語つたのは、渥美清さん（享年68）の妻・田所正子さんである。

『男はつらいよ』シリーズで車寅次郎役を演じた国民的スターだ。

96年8月4日、妻・正子さん、長男・健太郎さん、長女・幸恵さんの3人に見守られて、静かに息を引き取った。肺がんだった。

妻の正子さんは言う。「主人は生前から、仕事場と家庭を切り分け

ていました」

芝居仲間にもプライベートを明かさなかつた渥美さんの晩年とはどのようなものだったのか。

実は渥美さんは26歳で結核を患っている。

役者として、父として

渥美さんは「俺は結核のときにいろんな薬を飲んでるから、いざれ薬でがんになるだろうよ」とも語っていたという。その言葉通り、91年に肝臓がんを宣告される。3年後にがんは肺にも転移した。

肺が一つしかない渥美さんにとって、それは「死の宣告」にも等しいことだった。以来、渥美さんは常に死を意識しながら生きていくことになった。仕事をぎりぎりまで続けることが彼にと

って生きることだった。がんの告知後も、『男はつらいよ』の5作品に出演し、役作りへの打ち込み方も変わらなかつた。そう証言するのは、晩年の8年間、親交のあった元芸能記者の寺沢秀明氏だ。「渥美さんは代官山に仕事部屋を持っていました。自宅に帰るときは田所康雄（渥美さんの本名）に戻る。仕事は一切家庭に持ち込まない。そのため、撮影のときは自宅に戻らずに代官山の部屋で過ごしていました。毎日、寅さんと田所康雄を切り替えてはいられないですから」

がんに侵されてなお、芝居を続けた渥美清さん



寅次郎紅の花』の現場は壮絶なものだったと寺沢氏は言う。

「声がかすれ台詞が途中で詰まる。その都度、撮影が中断されました。そんな姿はかつて見たことがなかった。

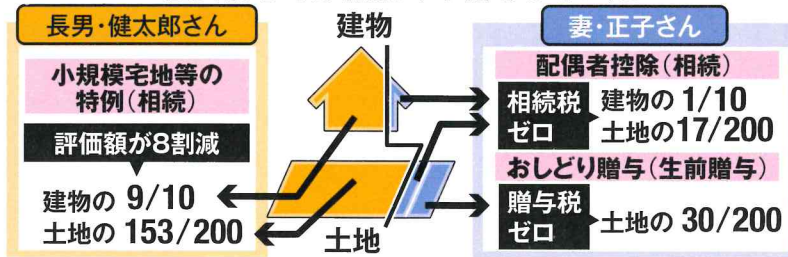
ロケ撮影の際もファンが色紙を振ってサインを求めても、表情は冷たく固まったまま。眉ひとつ動かさず無言で車へと乗り込んでいきました。ファンを大切に笑顔を対応していたそれまでとは、まるで違っていました」

前出の石井氏が異変を感じたのはCMに出演する渥美さんを見たときだ。

「もともと渥美さんは寅さんを演じるようになってからはバラエティには出ない人でし

た。「なんで出ないんですか？」と聞くと「寅は出ないんだよ、ああいうのは」と言っていました。CMも同様です。だから95年にブリヂストンのCMに

渥美清さんは相続の準備もしていた



出ていたのには驚きました。今思えば、最後に奥さんや子どもにまともなおカネを残すために受けたんだと思います」(石井氏)

病に冒されながら寅さんを演じ続ける中、渥美さんは夫、父としての最後の仕事にも手を抜かなかつた。田所家の登記簿を見ると、それがわかる。夢相続代表の曾根恵子氏が解説する。

「自宅の土地の2000分の30を奥様に生前贈与されています。おそ

寅さんは生き続けている

がん宣告を受けてから5年、死までの時間を役者としても、一人の人間としても生き切った人生だった。葬儀

らく2000万円の控除枠があるおしどり贈与を選ばれたのでしよう。渥美さんが奥様のことを気遣われていたことが窺えます。また奥様と娘さんに賃貸アパートを相続させるなど、女性に生活費や資金を潤沢に遺しています」

自宅の相続については、小規模宅地等の特例や配偶者控除を活用できるよう配慮がなされている。詳しくは上の図を参照してもらいたい。

は家族だけで行った。「俺のやせ細った死に顔を他人に見せたくない。骨にしてから世間に知らせてほしい」と

いうのが渥美さんの遺言だった。

最後に死に顔を見せなかつたのはなぜなのか。石井氏はこう考えている。

「渥美さんにとって田所康雄と寅さんは、それぞれまったく違うものだったんです。死んだのはあくまで田所康雄であって、寅さんは生き続けている。だからお墓にも本名しか彫ってありません。寅の名はいっさいないんです」

自分が死んだ後もお、渥美さんは「寅さん」を演じているのだらう。

寅さんの生き方に憧れる日本人は多いが、渥美清その人の死に様も、われわれに大切なことを教えてくれる。

累計40万部突破! 一番わかりやすいと評判の「死後の手続き」シリーズ 第3弾 基礎から最新情報まで

週刊現代別冊
完全
保存版

おとなの

講談社MOOK
定価 1000円
(税込)

週刊現代

Weekly Gendai Extra Issue

2020 Vol.2

ご存じでしたか?

2020年から

「死に方」のルールが変わりました

4月スタートの「配偶者居住権」ほか この四つだけ知れば間違えない

基礎がわかる2大特集

死んだら必要な書類36

身近な人が逝ってしまったときの手続きと順番

預貯金・土地・生命保険ほか 資産の名義はこう変えるのがお得です

死後の手続き

2020年改訂新版

2019年の法改正で、相続は「早いもん勝ち」に変わった

大事な遺産を親戚に横取りされたくない

遺言書の正しい「書き方」「書かせ方」

「死後節税」の得する手続き 払う税金を減らす方法

勝手に死んではいけません
—これは人としてのマナーです

あなたの人生、親の人生

終わる前に確認しておくべき52項目

銀行口座 株券 家の権利証 生命保険の受取人 車の名義 パソコンのパスワード
ペットのその後 墓の契約 葬儀に呼ぶ人 遠い親戚の連絡先 相続税の計算 ほか